



ママさん特派員の
県政ルポ

青少年育成問題

地域社会を 教育力のある子育ての場に

落合典子



「高橋たむろ会」の総会に出席し、少女達の意見を聞く
ママさん特派員の落合さん。

最近、中学生の校内暴力等が社会問題の一つとなっており、私は、この青少年育成問題を取り上げてみました。

頭にパーマをかけ、足をひろげ



総会の日、女の子が会の準備をしている間、男の子たちは町内の空き缶拾いをした。

単車を乗りまわしていた高校生が、夏の暑い日朝からリヤカーを引っぱり、各家庭で不要になった新聞雑誌などの廃品を一軒一軒集めて歩き、自分たちの会の活動資金づくりのために一生懸命に働いてい

る姿を、二カ月前にはどうも想像さえ出来なかったと感慨深いまなざしで見守っている高橋地区の人びと。

この鹿本町高橋地区には中学生・高校生を会員として構成されている「高橋たむろ会」という子ども会組織があります。それは県の地域ぐるみ健全育成推進地域の指定を受け、昭和五十六年、中学生の健全育成を目ざして発足されたものです。現在、中学生のグループが大人と一緒に地域活動をしている例は、非常に稀なものだと思えます。上級学校への進学のための受験勉強という足かせをはめられている感じが強い彼らにとって、一生のうちで最も多感なこの時期に自己をみがき、他をもみがきつ、人間性を高めて行く青春のエネルギーを燃やす場も機会も少ない現状は否定出来ません。むしろ日常生活において私たちの目にふれるのは好ましくない行動にはしる子どもたちの姿が目立ち、大きな社会問題となっています。それは大都市やその周辺だけの現象ではなく今や日本のすみずみまで蔓延(まんえん)しつつあります。



総会では、少年達が自由に意見の交換を行う。

そうした現状をふまえ今こそ大人たちが子どもたちの気持を理解し温かく見守り育て、行かねばと考えつかれたところから「高橋たむろ会」は生まれました。

その発足の詳しい経過と、活動状況について会員の方にお話をうかがいました。まず地域ぐるみの青少年育成の会を作るために、小・中・高校生をおもちのお父さんお母さん方にご夫婦づれでお集り下